

第661回

I B C 番組審議会 議事録

— 議 題 —

「足跡 ～釜石シーウェイブスの20年～」

2021年6月17日（木）

（株）I B C 岩手放送

第661回IBC番組審議会

1. 開催日時 2021年6月17日(木)

2. 開催場所 書面開催

3. 委員の出席

委員総数	10名
出席委員	8名
出席委員の氏名	
委員長	田代 高章
副委員長	熊谷 志衣子
委員	郷右近 勤 高橋 司
	小松 務 新里 真士
	澤口 たまみ 龍澤 尚孝
欠席委員の氏名	星 伸寿 藤野 静枝

会社側出席者

鎌田 英樹	代表取締役社長
眞下 卓也	常務取締役
黒澤 秀之	取締役
若槻 修	報道制作局長
若林 高行	メディア編成局長
角掛 勝志	テレビ制作部長
鹿野 真源	テレビ制作部ディレクター

事務局

平澤 泰志	番組審議会事務局長
向井田 真衣	番組審議会事務局員
吉田 美涼	番組審議会事務局員

4. 議題 「足跡 ～釜石シーウェイブスの20年～」
2021年5月30日(日) 午後2時半～午後3時 放送

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 地元テレビ局ならではの豊富な資料映像を基に、オーソドックスで静かなつくりではあるが、十分に引き込まれるものがある。新日鉄時代の栄光があったからこそその重圧と挫折、そして苦闘が、映像からにじみ出ている。
- この番組のハイライトはアンドリュー・マコーミックの最後の試合と、東日本大震災だろう。「味方のため 街のため」戦うというマコーミックの言葉は、とりわけ胸に迫った。
- クラブチームの悩みや苦勞している点、選手のチームへの思い入れ、震災後の地域貢献の様子など、とても分かりやすく、また応援団の熱い思いなどが十分に伝わる内容であった。今後とも、地元スポーツチームや音楽・芸能団体などをフォーカスする番組を作っていただきたい。
- スタンドのファンからは試合後、「いいぞ釜石。ありがとう」と、ここまではよくあるかもしれないが、そのあと「がんばれよ」ではなく、「がんばるよ」という声があがった。まさに、市民とシーウェイブスの関係性を示しているように思えた。
- 東日本大震災の時に、選手達が釜石の町の手助けをしているテレビを見て、心強く思ったが、市民クラブチーム「釜石シーウェイブス」として、仕事をしながらスポンサー探しや休む暇もなく練習する姿に市民も応援し、だからこそ、この地域の人達に何かしたいという思いだったという事が良くわかった。
- 子供たちのためのラグビースクールであるアカデミーを立ち上げ、ラグビーの町を絶やさないために後進の育成、エコシステムを作り始めた姿には未来を感じた。街の誇りとしてこれからも頑張ってもらいたい。
- 新日鉄釜石時代がなぜ強かったのか、なぜ市民クラブチームに替わらざるを得なかったのか、当時の市民の思い、企業の状況や時代状況も含めて、もう少し解説があると若い世代にも理解しやすいように思われる。